木曽調だより

2020
MAKE THE MOST OF
WATER
―水を活かす―

東海農政局木曽川水系土地改良調査管理事務所

No.37

写真は、犬山頭首工下流側から堰本体を撮影したものです（令和元年10月28日）。
犬山頭首工は、国営濃尾用水土地改良事業により昭和37年に完成し、昭和41年より国が管理を行っています。

目 次

■犬山頭首工における広報活動が東海農政局長賞を受賞　１Ｐ
■土地改良施設ＰＣＢ廃棄物処理促進対策事業の拡充
■既存ダムの洪水調節機能強化に向けた取組　２Ｐ
■ＵＡＶを活用したコンクリートのひび割れ計測の実証実験　３Ｐ
■直轄管理事業　濃尾用水地区（犬山頭首工）について　４Ｐ
■国営施設機能保全事業　中勢用水地区について　５Ｐ
■国営施設機能保全事業　尾張西部地区について　７Ｐ
■国営施設応急対策事業　青蓮寺用水地区について　８Ｐ
■国営施設応急対策事業　宮川用水地区について　９Ｐ
■国営施設応急対策事業　長良川用水地区について　10Ｐ

犬山頭首工における広報活動が東海農政局長賞を受賞

令和2年6月、木曽川水系土地改良調査管理事務所（以下「木曽調」という。）は、犬山頭首工の広報活動について東海農政局長賞を受賞しました。
本件に関する受賞は、本年2月に受賞した全国農村振興技術連盟の広報大賞特別賞に続き２度目となります（バックナンバーNo.36参照）

木曽調では、犬山頭首工において、平成30年度から観光協会との連携による「水の恵みカード」や「ダムカード」の配布、外部団体（自治体、私鉄、旅行会社等）との共催による大規模イベント・見学会の開催、地元新聞への犬山頭首工と濃尾用水に関する掲載等、積極的に広報活動へ取り組んでいます。

今回の受賞は、一連の活動が濃尾平野の農地を潤す犬山頭首工の理解、さらには農林水産行政の広報に寄与したことが全国的な模範となり得ると評価されました。特に施設の説明に際し、概要書を読み上げるのではなく、参加者との笑いを交えた対話や質疑、ゲート設備の操作実演等による効果的な説明を各職員が心掛け、参加者からも「犬山頭首工は面白い」、「他所の施設では体験できない」等と高評価でした。

操作実演の様子
（犬山頭首工管理所操作室）

記念撮影の様子
（犬山頭首工管理所屋上）

犬山頭首工の全景
（犬山頭首工上流から撮影）

令和2年4月、土地改良施設PCB廃棄物処理促進対策事業が拡充

１ 事業目的

国営土地改良事業により造成された土地改良施設において、ポリ塩化ビフェニル（以下「ＰＣＢ」という。）の確実かつ計画的な処理を行い、もって土地改良施設の適正な管理に資することを目的とする。

２ 事業内容

土地改良施設の塗膜に含まれるＰＣＢ（以下「ＰＣＢ含有塗膜」という。）の濃度分析調査、ＰＣＢ含有塗膜の処理等に加え、国が自ら保管するＰＣＢ廃棄物の処分等を拡充。

３ 採択要件

昭和41年から昭和49年までの期間にＰＣＢを含む塗料による塗装が行われたおそれがある土地改良施設であること。

土地改良施設に使用されていたＰＣＢ廃棄物であって、国がポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（平成13年法律第65号）第８条第１項及び第15条に基づく届出を行い、保管しているものであること。

４ 事業実施期間

本事業の実施期間は、令和２年度から令和８年度までの７年間とする。

※事業実施主体は、直轄事業（国費率10/10）では調査管理事務所、補助事業（補助率1/2）では土地改良区や市町村等になります。

既存ダムの洪水調節機能強化に向けた取組

近年の水害激甚化等を踏まえ、ダムによる洪水調節機能の早期強化に向け、関係行政機関（内閣府、内閣官房、国土交通省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、資源エネルギー庁、気象庁）の緊密な連携の下、総合的な検討を行うため、既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議が令和元年11月26日に設置されました。

令和元年12月12日に開催された検討会議で、「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」が示され、その中で、令和2年5月までに、一級水系を対象に、水系毎に治水協定を締結することとされ、河川管理者（国土交通省地方整備局等）は、ダム管理者と連携して、水系毎にダムの統一的な運用を図ることになりました。

これを受け、全国109の一級水系のうち、ダムのある全99水系において、河川管理者、ダム管理者及び関係利水者等で構成される協議会を水系毎に設置（事務局：河川管理者）し、令和2年５月末までに水系毎の治水協定が合意されました。

これにより、既存ダムの貯水量のうち水害対策に使える容量の割合が、全国でこれまでの約３割（46 億㎥）から約６割（91 億㎥）へ倍増する見込みです。

東海農政局管内では、農林水産省所管ダム13基について、有効貯水量の約15%が洪水調節可能容量として活用されることになりました。

水系（一級水系）	ダム名	区分	有効貯水量（千㎥）	洪水調節可能容量（千㎥）
矢作川水系	羽布ダム	直轄	18,461	3,162
木曽川水系	牧尾ダム	水資源機構	68,000	9,172
	松野ダム	補助	2,350	1,638
	不破北部ダム	補助	978	978
	小渕農地防災ダム	補助	552	413
	谷山農地防災ダム	補助	268	154
	打上調整池	水資源機構	2,200	99
豊川水系	宇蓮ダム	水資源機構	28,420	3,369
	大島ダム	水資源機構	11,300	1,477
	大野頭首工	水資源機構	906	60
鈴鹿川水系	加佐登調整池	水資源機構	3,000	300
庄内川水系	神徳防災ダム	補助	295	239
淀川水系	真泥ダム	補助	1,291	7
合計	13ダム		138,021	21,068

＜事前放流の実施状況＞

令和２年７月豪雨に関連して事前放流を実施しており、上記管内のダムのうち、３水系４ダムで実施されました。

このうち、羽布ダムが国営造成施設（直轄）として、全国初の事前放流の実施となりました。